

《解答》

- ① 放送による聞き取りテスト
(省略)

② 論説文

- 問1 a 複雑 b たぐわ(え) c 供給 d せんざい
問2 ウ
問3 ア
問4 エ
問5 ウ
問6 (例)人類は科学・技術を発達させ、欲望を満足させているが、未だに危機を予知することほできないから。(46字)
問7 イ

③ 小説

- 問1 イ
問2 エ
問3 ウ
問4 ア
問5 (す)と(胸)の中でくすびっていた違和感(14字または17字)
問6 (例)自分も益岡のまじりに野球が好きで、甲子園に行きたいということ。(30字)
問7 イ
問8 ウ

④ 古文

- 問1 いうやう
問2 エ
問3 イ
問4 ひかない

《解説》

- ① 放送による聞き取りテスト
(省略)

② 論説文

- 問1 (省略)
- 問2 副詞は主として連用修飾語として用いられる。
- 問3 第一段落の内容から判断する。
- 問4 傍線部を含む文に「これは」とあるため、直前部分に注目すればよい。
- 問5 空欄を含む段落やその次の段落に注目する。人間や他の動物が持続的に生きていくためには、森の植物が作った有機物が不可欠であるという内容である。
- 問6 傍線部を含む段落の内容を字数に即してまとめる。
- 問7 選択肢アは「太古の森を取り戻す」、ウは「積極的な姿勢で作り変えていく」、エは「問題の原因を自分たちの手で明らかにしていくべき」などの部分がそれぞれ合わない。

③ 小説

- 問1 「不敵」は「大胆で恐れを知らないこと」などの意味で用いられる。
- 問2 選択肢アは「須藤を説得することができる」、イは「自分の発言にまったく耳を貸さうとしない相手」、ウは「自分の発言をともに受け止めようとする須藤」などがそれぞれ合わない。
- 問3 傍線部の前後の内容を正確に読み取る。益岡が流した涙について、須藤が何を感じたのかを考える。
- 問4 傍線部前後の益岡の発言に注目する。
- 問5 「もやもや」は「心にわだかまりがある様子」などの意味で用いられる。
- 問6 傍線部前の「俺だって好きなんだ」「甲子園に行きたくないわけじゃない」などの部分に須藤の本音が述べられている。
- 問7 傍線部前に「くすびっていた違和感が、消えていく」などとあり、会話を通して二人の間のわだかまりが解けたと判断できる。

- 問8 「ヒレくけど」「アホみたいな」など、口語表現が効果的に用いられている。

4 古文

問1 古文における語頭以外の「はひふへほ」は現代仮名遣いで「わいうえお」となる(助詞のは・へは除く)。また、「ア段十ウ」は「才段十ウ」となる。

問2 一文目の会話部分の内容に注目する。

問3 傍線部直前の、「何の役にも立たぬ牛なり」「犂は一足もひかず、そのくせに人を見てはかけんとする」などの部分から判断する。

問4 売主の発言に、「犂は一足もひくまい」「佐奈田は、たびたびかけこぼしたわ、一足もひいたことはなかった」とある。